

つり光

No.153 2021. 3

発行 真言宗豊山派
北田山寶泉寺
所沢市北岩岡130
編集 色摩真了
ホームページアドレス
takaranoizumi.com

映画

痛くない死に方

映画「痛くない死に方」を視聴してきました。

主演は柄本佑さん。原作は在宅医療専門家である長尾和宏医師。自宅で最期を迎える人々を医師の立場から追ったストーリーで、主人公の成長物語が本筋ですが、どのようにして、**平穏な死**を皆の協力のもと作り上げていくかが最大のテーマとなっています。

劇中には多くの印象的な言葉が散りばめられていて、特に私は、ベテラン医師（奥田瑛二さん）による「大病院の専門医は臓器という断片を見る。俺たち町医者には物語を見る」、「自然な死に方とは、枯れるように死んでいくこと」の二つのセリフが、強く胸に残っています。

また、ある患者さんが詠む「痛みなく 悔いなき最後 平穏死」という川柳には、この映画の言いたいこと全てが凝縮されていると感じました。

現代、死の迎え方にはさまざまな考え方と選択肢があります。そこに正解というものはないのかもしれませんが、それでも、

「死」は「人生」の一部です。自らの死を考えるとすることは、生き方を考えることに他なりません。そのことを改めて実感させてくれるすばらしい映画でした。

※原作者、長尾和宏医師はインターネットでも積極的に発信しています。興味のおありの方はぜひ調べてみてください。



お知らせ①

護摩法要

日時：3月21日（日）14時開式

会場：寶泉寺大師堂

悪いものを焼き払い、私たちの願いを仏様に届けるために行うのが護摩法要です。皆様の願いが書かれた護摩木をお焚き上げしますので、ご希望の方は大師堂にてご記入ください。法要の開始直前まで受けつけています。



お知らせ②



花まつり



日時：4月8日～10日 10時～16時

会場：寶泉寺本堂

4月8日はお釈迦様のお誕生日で、花まつりと呼ばれます。今年を上記の時間、3日間にわたり本堂を開放します。また、本堂内では期間中いつでも腕輪念珠が作れるよう準備しています。どなたでもお気軽にお越しください。

（腕輪念珠はお一人につき一つまでは無料です）

「護摩法要」と「花まつり」につきましては、コロナウイルス感染に気を付けながら行う予定です。参加される方はマスクの着用と、検温を含め体調の確認をお願い致します。少しでも調子のすぐれない方は無理せずお休みください。

また、情勢の変化次第で中止となる可能性がありますことをご了承ください。

お知らせ③

動画共有サイト **YouTube** に法話をアップしています。絵本を題材にしたお話に特化し試行錯誤していますがなかなか難しいものですね。よろしければYouTubeのページにアクセスのうえ「北田山宝泉寺」で検索してご視聴ください。



老僧のつぶやき ⑬

前回の本欄で（152号）で「葬儀には家族はもちろん親戚や近隣、知人などが支え合うという側面があり、心の平安を取り戻していくきっかけにもなり得るものです」と書きました。今回はそれをもう少し深めていきます。

「コロナが奪う弔いの連帯感」昨年暮れの毎日新聞の見出しです。まさに今このような状況にいたっていると思います。上智大学の故デーケン名誉教授は早くから「死生学」や「死への準備教育」の必要性を唱えられておりました。大事な人の死別や突然の喪失から回復への道りを12の段階を挙げ、悲嘆からの復活を示されたのです。

人の死、特に肉親のそれは大きな悲嘆を伴うものです。人生の後半はみんな同じような経過をたどります。病気や認知症をかかえ見守りや介護、看病を受けながら最期を迎え、そして残された人には最後に葬儀という一連の営みがあります。終われば故人を偲び、今までの自分を振り返りながら安堵するものでした。以下毎日新聞より引用「デーケンさんは、大切な人を失った悲しみを癒やすプロセスとして葬儀が重要な役割を果たすと強調していた」。

しかしこのような営みができないのがコロナ禍の今です。あたたかい最後の介護、看護の手をさしのべることも出来ず、お葬式も感染防止のためにと大きな制約がかかり、儀式は家族だけでとなると嘆きや悲しみが癒えることなく、むしろ増幅してしまいかねません。「最後のお別れだけはしたい」と願う、近所の人や友人知人の思いも断たれてしまうのです。

ところで物理の世界には作用反作用の法則があります。壁を押した時、押した力と同じ力を壁から受けているというものです。よくお葬式などの際、「親孝行も出来、老後の看病もしたし悔いはない」「大勢の人に来ていただいてよかった」、こんな話がでることがあります。このような方は尽くした力が自分に返って復活も早いのではと思います。一方、コロナ禍の中で介護、看護もままならない、最期の看取りもなく葬儀をせざるを得なかった方々には、充実感や達成感が得られず後々にストレスを残すのではと想像します。社会生活を営む私たちの暮らしはあらゆる支えによって成り立っていて、特に葬儀のような非日常の場合は特にそうです。支援や連帯を必要とする機会であり、コロナ禍の中とはいえ今後「弔いの連帯感」を強く意識したいものです。



コロナ禍における ご法事について

コロナ禍におけるご法事について、お問い合わせをいくつかいただいています。

- ◆ 本堂でのご法事は、通常通りお受けしています。
- ◆ お食事については、少ない人数でとられるご家族や、お弁当を持ち帰っていただくご家族が多い状況です。
- ◆ 開催の日取りが一番の心配ごとかもしれません。ご命日と全く違う時期でも問題はございませんので、柔軟に設定していただければと思います（地方では、集りやすいゴールデンウィークなどに行くことも多くあります）。

ことしも雑木林の作業に お手伝いいただけませんか！

3月24日（水）、3月30日（火）、午前9時からお昼まで。
こちらで昼食を用意しておきます。

作業服、タオル、軍手など、あればノコギリ、ナタなどもお持ちください。お手伝い願える方はぜひお知らせください。 ☎04-2943-2467
楽しく作業したいなあと思っています。

編集後記

- ・ 検診でピロリ菌が発見され、今週は除菌薬服用中。ここ数年胃の調子がイマイチ、まさかと思ったが、除菌成功を期している。胃の不調を感じる方には是非ぜひ検査をおすすめしたい、もちろん健康保険が使える。
- ・ コロナの渦中、鎖骨骨折で入院していた友人の話。家族の面会で思いついたのは病棟の一角から、窓越しに屋外の家族と顔を見ながら携帯電話で話すことだったそう。そして今、コロナワクチン不足が話題、注射器の工夫で接種人数が増えるという、いいアイデアだ。こんな時には暮らしの知恵や工夫が必要だ。
- ・ それとコロナ禍にあつて、家庭内暴力が増え今年度の相談件数が過去最高だという。在宅勤務や巣ごもりで会話に無駄がなくなることでストレスを生むそう。経済はもちろん大事、かつ「心の健康」にも配慮が必要になっている。
- ・ 明日は東日本大震災から10年、10年一昔とは言えまだまだそんな気にはなれない。このところの震災、原発爆発などの記事や映像を見るたびにさらにその感が増してくる。

Mar.10. 2021(真)